

○ 該当保護者(加害者・被害者)との連絡

- ・ 指導経過の報告
- ・ 家庭の様子の確認

◎ 明確な指導方針・対応策の提示

- ・ 家庭訪問や電話による報告
- ・ 学校での教育相談

○ いじめられた児童を守るための対策

- ・ 全職員の共通理解
- ・ 全職員の解決に向けた支援

◎ サポートチームでの対応策の検討

- ・ 校内巡視
- ・ 必要に応じて登下校の送り迎え
- ・ 状況の確認(個別相談ノート、学級での聞き取り)
- ・ 緊急避難としての欠席(学習保証の配慮)
- ・ 席替え、班替え
- ・ 友達づくりの支援
- ・ 深刻な場合は転校処置の弾力的運用

発生時のプログラム

- ① 「いじめ」の状況把握～被害者と第三者の子ども、他の教師から(ただし、被害者が「いじめ」と感じていればそのまま認定する)
- ② いじめる子に「もうしない」「相手の心を傷つけることはやめる」と心から約束できる指導の展開 【個別指導】
- ③ いじめのない学級目標を見つめ直す 【学級指導】
 - ・ いじめの行為は厳しく批判しつつ、被害者へも寛大で今後の成長を支援する
 - ・ いじめを受けた子への学級全体のケアを通して、人間信頼の回復を見守る
- ④ 保護者への協力要請と報告

(2) いじめのあとの指導に心配りを

いじめの構造は児童の優位性の問題で、立場は流動的に変化し、いじめが連鎖的に発生すると述べました。つまり、一つのいじめが収束すると、今度はその加害者だった児童がいじめの対象になる可能性が大きいということです。そのためにも、事後の指導は大切です。

いじめられた子どもへの事後として

- 「いじめられる子が悪い」という考え方は全くありません
- その子を丸ごと受け止めて、「そのままでもいい」と受容してあげましょう
- いじめをやめさせると約束しましょう
- 笑顔が戻ってきているか追っていきましょう

「あなたにも悪いところがあるんだよ」とか「いじめをやめさせられるか分からないけど・・・」という対応は、信頼関係を崩してしまいます。絶対にやめさせるという強固な理念を持って「先生は君の見方なんだ」という姿勢を示すことで、いじめられている子どもの心は軽くなって、希望がわいてきます。教師の人間性を示して対応しましょう。

いじめた子への事後として

- 罪は罪として、許されることではないと毅然としましょう
- 悩みや不満を十分に聞いて、それを受容してあげましょう
- スキンシップを十分に取しましょう
- 明るさ・元気さを大いにほめてあげましょう

いじめた子どもには、心に大きなストレスや不満があります。そのストレスや不満を分かってくれる人がいる、聞いてくれる人がいるということで、その子の心にもゆとりが生まれてきます。同様に家庭へも求めてもいいでしょう。いじめっ子への事後指導の最大のポイントは、「愛情をかけてあげる」ことです。

生活集団にしこりが残らないよう、集団性が高まるエンカウンターを実施したり、不満を解消するスキルを高めるソーシャルスキルを実施したりと、授業や日常でできる具体的な指導も効果的です。

人間に完璧な人などいません。誰しも悪いところを持っています。「誰しも悪いところがある」と認めてあげることからいじめの克服が始まります。誰もが欠点だらけの「発達途上の子ども」の世界にとっては、許し合いと励まし合いが原則です。欠点をつくるのではなく、それを長所として生きて働くように、「失敗からの成長」を認め、一人の人間として子どものいじめに向き合えるようにしましょう。

【参考文献】

- 文部科学省「いじめ防止対策推進法概要」
- 生徒指導提要・・・文部科学省
- 郡山市教育委員会「いじめ対応マニュアル」
- いじめ防止実践プログラム・・・尾木直樹（学陽書房）
- 豊かな心をはぐくむために・・・江戸川区教育委員会
<http://www.city.edogawa.tokyo.jp/topics/18shidou.html>
- いじめ防止学習プログラム・・・新潟県教育委員会
<http://www.pref.niigata.jp/kyoiku/gimukyoiku/gimukyo/izimepuro/izime2.html>
- ソーシャルスキル教育で子どもが変わる・・・國分康孝（図書文化）
- 実践ソーシャルスキル教育・・・佐藤正二・相川充（図書文化）
- エンカウンターで学級が変わる・・・國分康孝（図書文化）
- 総合的学習でできるライススキルトレーニング・・・皆川興栄（明治図書）
- ピア・サポートではじめる学校づくり・・・滝 充（金子書房）
- 怒りをコントロールできない子の理解と援助・・・大河原美以（金子書房）
- 指導と評価 2010.7「人間関係録を育てる」・・・日本図書文化協会
- 学校教育相談 2013.7 増刊号「いじめ防止6時間プログラム」

栗原慎二（ほんの森出版）